

コメント;なぜ閉鎖型事業体が必要か？

独自性、新奇性は閉鎖性の関数だから、、、

2005.03.18

@RIETI政策シンポジウム

齋藤旬 junsaito@ip.rcast.u-tokyo.ac.jp

www.llc.ip.rcast.u-tokyo.ac.jpでML会員募集中

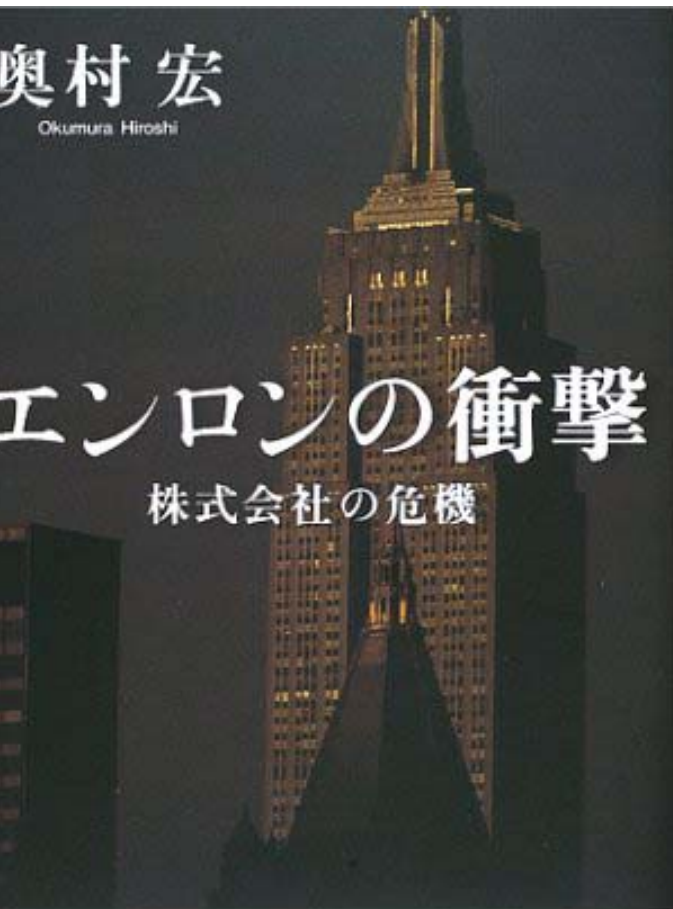
閉鎖型とは

1. 出資者を限定
2. 非公開の組合会計

これらにより

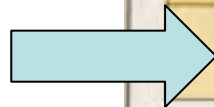
一般の物差しに依らない
無形財産活用が可能に

ディスクロージャーの必要性が 取り沙汰されている今、

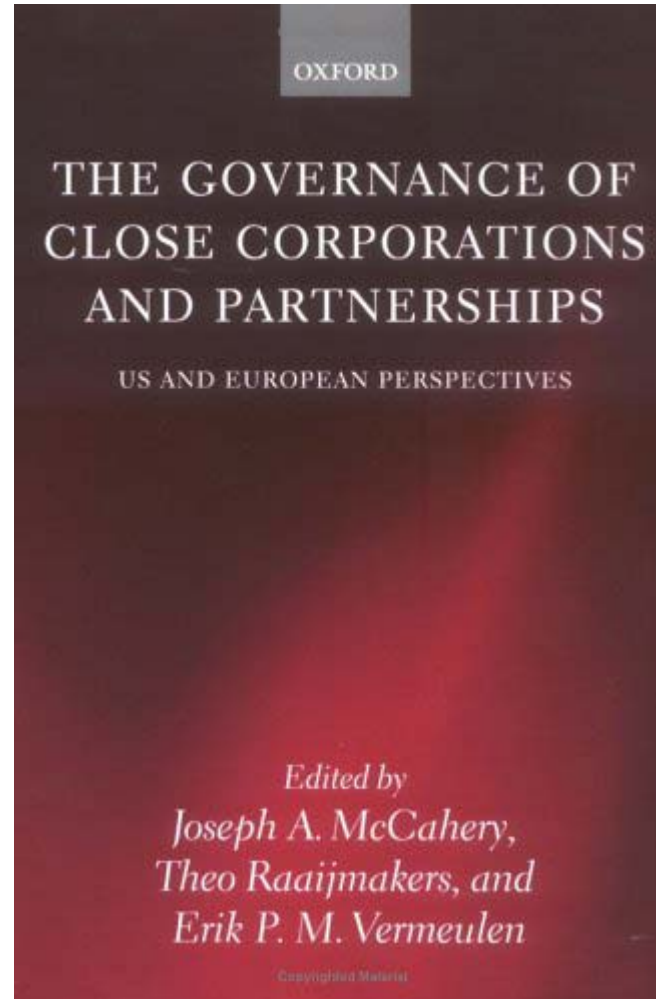


会計・監査を巡る最近の主な動き

2002年1月	監査基準を改定
10月	金融再生プログラムのなかで竹中経財・金融相が繰り延べ税金資産の厳正な監査を求める
03年2月	日本公認会計士協会が繰り延べ税金資産の厳格査定を求める
3月	<u>ゴーイングコンサーン規定始まる</u>



『閉鎖型法人および組合の欧米における法リフォーム』
国際学術会議が開催された。(2001年5月)



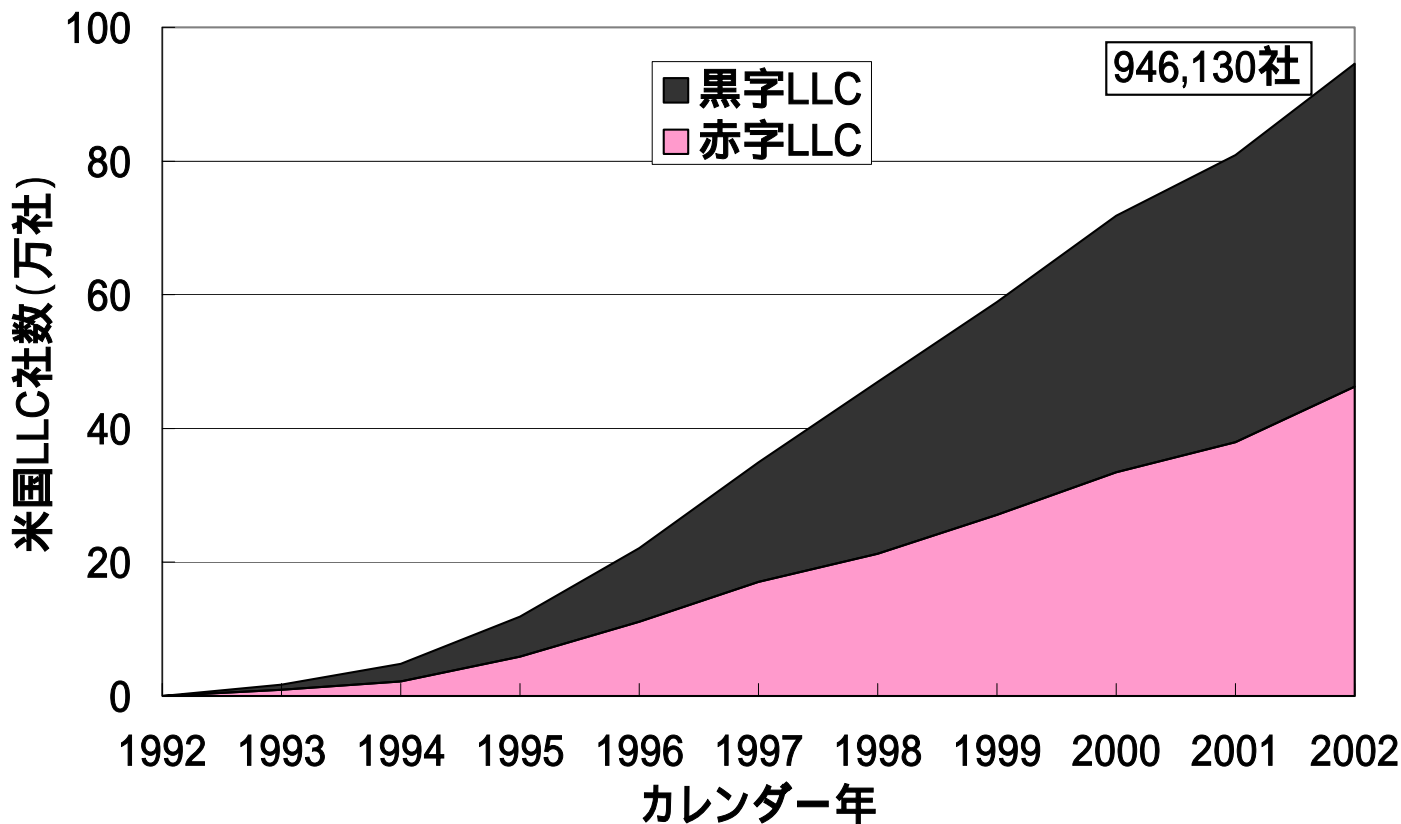
論文集の冒頭、Joseph McCahery氏

- 企業が抱える輻輳するニーズを満たすためには、事業体形態が様々に用意されていることが不可欠だ。つまり、単一種類の事業体(それは一般に有限責任シールドを備えている)だけでは投資家益を最大化できそうもないこと、これは明白だった。しかし今まで事業体形態の自由な選択は、法と規制の整備不良によって阻害されていた。ようやくLLCやLLPの様な新組織形態が開発されるにいたって、「全レベルにおける事業ニーズを満たすに必要な“法規制の多様性”」が、企業法制のテーマにとって極めて重要であると認識された。

米国における 法人、組合、LLCの 各要素における比較

	法人	組合	LLC
法人格	有り	無し	有り
出資者の返済責任	全出資者が有限責任	無限責任者が必要	全出資者が有限責任
会計	公開型法人会計	閉鎖型組合会計	閉鎖型組合会計 +
課税	事業法人毎に課税	パススルー課税	パススルー課税

米国絶好調の10年に 日本に今存在する株式会社の数 に匹敵するLLCが米国に出現



論文集の冒頭、Joseph McCahery氏

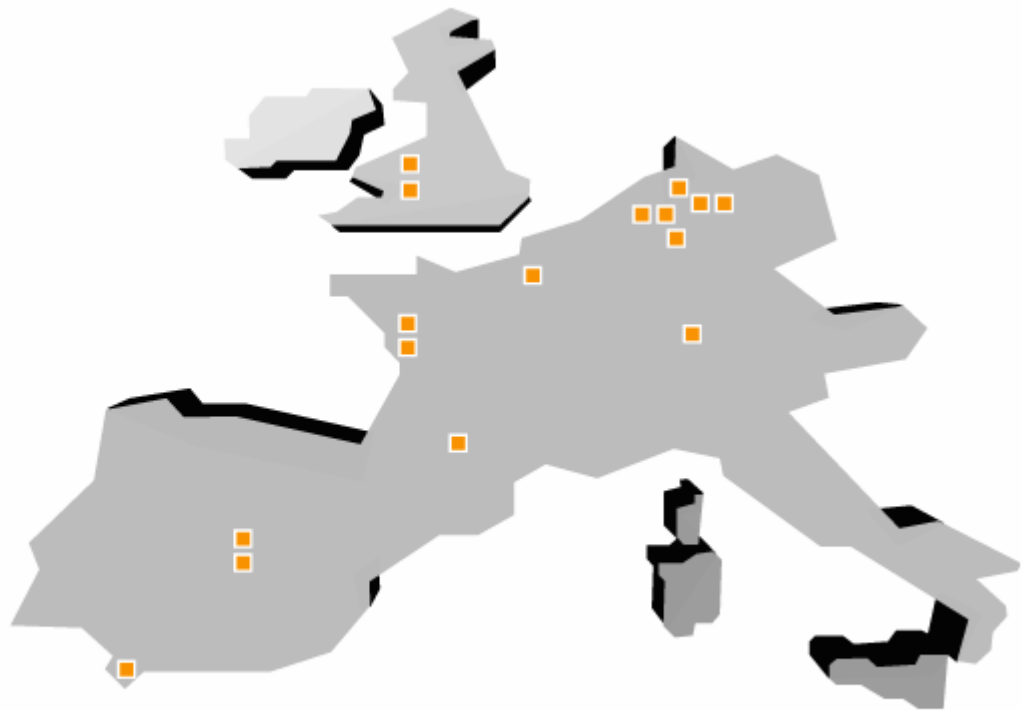
(続き)

- 近年、組合形態の法革新が急激に連続して起こり、米国の事業組織法が大きく様変わりした。1988年に米国内国債入庁IRSがLLCのパススルー課税を正式承認してから、現在全50州とワシントンD.C.にLLC法制度が揃った。LLCの出現により事業体形態メニューが改良され例えば、「個々のLLCを束ねて多国籍企業体にする(Bundling together Limited Liability)」、「フレキシブルな事業体統治機構」、「課税方式の選択」、等が可能になった。



The main manufacturing units are:

	CABIN INTERIOR
	FUSELAGE (forward and aft)
	FUSELAGE (cockpit and centre)
	WING
	PYLON, NACELLE
	EMPENNAGE horizontal tail plane
	EMPENNAGE vertical tail plane



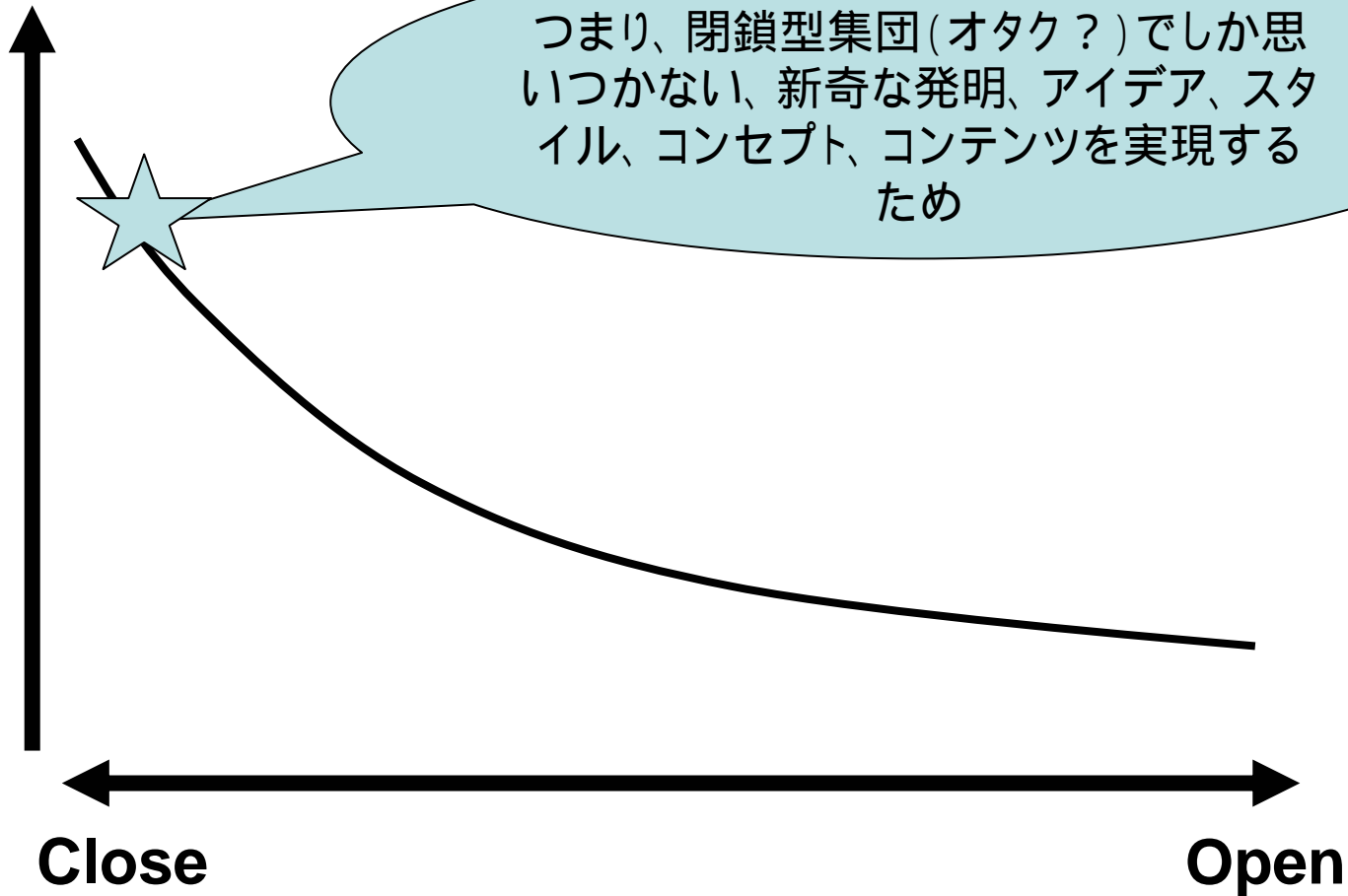
FINAL ASSEMBLY LINES		
A320 FAMILY	A300/ A310 AND A330/ A340	A380

LLCの使用例

1. 『Bundling Together LL』 :
AirBus、ASML、Nokia、アリアンロケット、
2. 『死の谷越えのコラボ型LLC』 :
EUV-LLC、eLith-LLC、Iridium-LLC、
3. 『人材活用LLC』 :
Segway-LLC、Dream Works LLC、
4. 『Early Stage IP活用LLC』 :
Bell Atlantic IP Holdings LLC、
大学発ベンチャー (Illinois Venture LLC等)

、、、という話は割愛して、本題に戻る。
「なぜ閉鎖型事業体が必要か？」

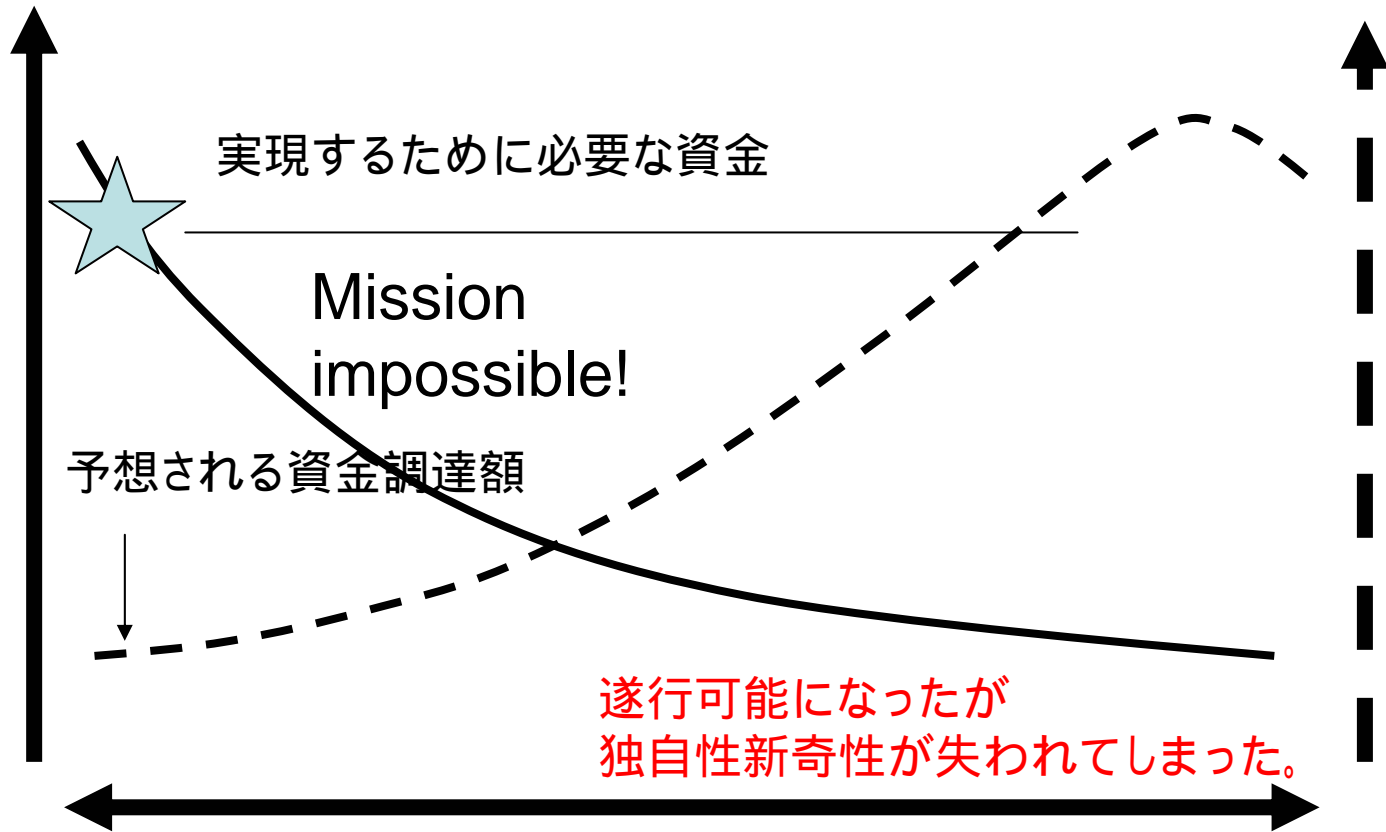
独自性、新奇性



しかし問題が 実現するには資金が必要

独自性、新奇性

資金調達力



Close

Open

公開型では、

- 実現できる“独自性、新奇性”に**限界**があった。
- かつては高度経済成長時代と、それに続く、“まだローリスク・ローリターン事業が残っていた時代”だったので、
- 公開型事業体の公開型資金調達による活動で、産業はまだ回っていた。
- しかし、時代が進み、ローリスク・ローリターン事業をやり尽くし、ハイリスク・ハイリターン事業だけが残った今の我々の時代には、
- **限界**を破って、“独自性、新奇性”に挑める仕組みが必要になった。
- 閉鎖型事業体が必要になった。

必要な三要素

1. 閉鎖型事業体。
あくまでも自分の独自性・新奇性にこだわる
クリエイター
2. その独自性・新奇性を理解サポートし、外部
者に理解させ、資金をかき集めてくる
プロデューサー
3. 資金力と“目利き”能力を持った外部者
V.C. ベンチャー・キャピタリスト

まとめに代えて

